保 証 書

本書は下記の保証規定により、無料修理を行なう事をお約束するものです

機種名		PRO-XR
お客様	ご住所	〒　　☎
	お名前	e-mail
保証期間		一ケ年
取扱販売店	住所 店名	
お買い上げ日		年　　月　　日

保証規定

保証期間内に、正常な使用状態において万一故障した場合には無料で修理致します。
次のような場合には保証期間内でも有料修理になります。

①水害、落雷、異常電圧その他天災地変による故障
②お買い上げ後の輸送、落下等による事故および損傷
③本保証書のご提示がない場合
④本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合

不当な修理および改造をした場合は、修理をお引き受けできません。
修理品の送料に関しては、本保証に含まれておりませんので予めご了承下さい。

アツデン株式会社

https://www.azden.co.jp　　e-mail : sales@azden.co.jp
〒181-8533　東京都三鷹市上連雀 1 丁目 12 番 17 号
営業部 TEL 0422-55-5115　FAX 0422-55-0131

PRINTED IN JAPAN 060-36131C01

PRO-XR

2.4GHz デジタルワイヤレスマイクロホンシステム

取扱説明書

この度はアツデン製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読み下さい。
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、大切に保管して下さい。

AZDEN

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 危険	この表示の欄は「違法行為となる」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的傷害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（ 下記は、絵表示の一例です。）

⚠	この様な絵表示は、気をつけて頂きたい「注意喚起」内容です。
⃠	この様な絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	この様な絵表示は、必ず実行して頂きたく「強制」内容です。

⚠ 注意

⃠

異常に温度が高くなる所に置かないで下さい。
・機器表面や部品が劣化するほか故障の原因になることがあります。
・ストーブなど暖房器具の近くに置かないで下さい。
雨や水滴などがかかる場所に設置、保管しないで下さい。
・機器表面や部品が劣化するほか故障の原因になることがあります。
・水や異物が入ると火災や感電の原因になります。

⚠ 警告

⃠

分解・改造はしないで下さい。
・機器が故障したり金属物が入ると、やけどや火災の原因になります。
この商品を幼児、子供の手の届く範囲には放置しないで下さい。
強い衝撃を与えないで下さい。
水をかけないで下さい。
異物（燃えやすいもの、金属、液体）を入れないで下さい。
・感電、やけど、故障、火災の原因になります。
以下の場所で使用、放置、保管しないで下さい。
・炎天下の車内
・ストーブなどの熱源の近く。
・直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
異常に気付いたら使用しないで下さい。
・異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがありましたら、すぐに使用をやめお買い上げの販売店か当社に修理を依頼して下さい。
医療機関、医療機器の近くでは本製品を使用しないで下さい。
本製品を航空機内で使用しないで下さい。
本製品を自動ドアや火災警報装置などの自動制御機器の近くで使用しないで下さい。
・電波の影響によって機器の誤動作が発生し、事故の原因になる可能性があります。
付属のケーブル以外で充電しないで下さい。

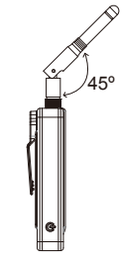
トランスミッター用アンテナ

フレキアンテナ

フレキアンテナはトランスミッターをベルトやポケットまたは衣服の中に取り付けた際に目立たちにくい形状で、どんな状況でもお使いいただけます。

高出力アンテナ

高出力アンテナはトランスミッターに使用する際、通信性能を向上させることができます。フレキアンテナより装着した際に目立ちやすいため、状況に応じては仕様に適さない場合もありますが、特に Wi-Fi 信号の飛び交う場所や見通しの良くない状況、または長い距離での使用など困難な環境下においてはこのアンテナの使用を推奨します。



トランスミッターを人体の背後に置く際は高出力アンテナを使用し、人体から遠ざけて約 45 度の角度に曲げるとより効果を発揮します。

より快適にご利用いただくために

① PRO-XR のご使用前に RX と TX の充電を完了して下さい。

② 撮影中はヘッドホンをレシーバーに接続し音の確認を行うことで撮影中の音声上の問題を検知できます。

③ 可能な限り TX と RX は遮蔽物の少ないところで撮影を行ってください。PRO-XR システムは電波妨害を回避する動きを常に行っていますが、TX と RX の間は、見通しの良い状態を保つことが最適です。

④ トランスミッターでの高出力アンテナの使用はどんな状況でも可能です。トランスミッターを人体の背後に置く際は、高出力アンテナを人体から遠ざけて約 45 度の角度に曲げるとより良い通信性能でご利用いただけます。

⑤ Wi-Fi の大変混雑した環境において、PRO-XR は接続できるクリアチャンネルを見つけることが難しくなります。また、これらの環境では同時に複数の PRO-XR を使用することにも限界があります。ご使用になる場所を選定する際は、これらの運用に制限があることを考慮ください。

⑥ Wi-Fi やブルートゥース機器が近くにあると通信性能に影響がでます。PRO-XR の使用時におけるこれらの機器の影響を避けるため、Wi-Fi 機能のあるカメラは電源をお切りください。

⑦ PRO-XR システムは、電源を入れると 2.4GHz の環境を自動的にスキャンして最も接続に適した周波数帯を選択します。この優位性により、他の 2.4GHz の機器と近接した接続の困難な場所において、PRO-XR システムは既に使用されている周波数帯を避けることができます。使用中に頻繁に音声の途切れが生じた場合は、その場所で一度 TX と RX の電源を切って再び電源を入れ直してください。そして再度ペアリングを行えば周波数帯の干渉を避けることができます。

⑧ PRO-XR を一眼レフカメラやミラーレスカメラと使用する際、過入力にならない範囲で強いオーディオ信号を得るためにレシーバーの音量レベルを最大に合わせ、カメラのゲインを下げてください。ゲインをさらに下げる必要がある場合はレベルが最適になるまでレシーバーの音量を下げてください。一般的には、カメラのプリアンプは出来るだけ小さいレベルで使用することが望ましいとされています。

録音レベルの設定方法

カメラ側でマイクの録音レベルを設定できる場合、一般的にカメラのゲインレベルを低く設定し、レシーバーの出力レベルを高くするのが好ましいとされています。カメラのプリアンプは品質の低いものがあり、ゲインを高くするとレコーディング時にノイズが生じる傾向にあるためです。　PRO-XR のオーディオ出力は高レベルのオーディオ信号を提供できるように設計されているので、カメラのゲインレベルを最適にするために、下記のステップに従って操作してください。

下記のステップに従って録音レベルを設定してください。

① 電源を入れ、ペアリングが完了し、ラベリアマイクが正しくトランスミッターに接続され、レシーバーがカメラのマイク入力に正しく接続されていることを確認してください。

② カメラのマイクのゲイン設定を確認してください。必要に応じてマイクのゲインをマニュアルモードに設定し、カメラのゲインレベルを最小に設定してください。

③ マイクにテストレベルの音声を入力しカメラのオーディオメーターでレベルをモニターしてください。オーディオレベルはメーターの約 75% 位に設定するのが理想です。

a. オーディオレベルが低い場合は、十分な音量に達するまで、PRO-XR のレシーバーのプラス (+) ボタンを押して出力ゲインを上げてください。レシーバーのゲインが最大に達しても音量がまだ十分でない場合は、カメラの入力ゲインを十分な音量に達するまで上げてください。

b. オーディオレベルが高く歪んでしまう場合は、PRO-XR のレシーバーのマイナス (ー) ボタンを押して出力ゲインを下げてください。さらにゲインを下げる必要がある場合は、ラペルマイクを話し手の口元から話すか話し手の声量を下げてください。

内蔵バッテリーと充電

トランスミッターとレシーバーにはそれぞれリチウムバッテリーを内蔵しています。どちらも本体の底部にあるミニ USB ポートを経由して充電ができます。また、同梱されている二股式充電ケーブルを使用し、RX と TX を同時に充電することができます。ミニ USB プラグの色（赤 / 黒）は異なりますが、RX と TX どちらに差し込むこんでも問題なく充電できます。充電の際は、同梱された AC アダプターを使用してください。USB 充電ケーブルはパソコンやその他の USB ポートに接続できます。
充電している間、パワーインディケーターは緑色に点滅し、充電が完了すると緑色の点滅が消えます。
充電時間はおおよそ 2.5 時間です。フル充電の状態で最大使用時間はトランスミッターが 15 時間、レシーバーは約 21 時間です。レシーバーとトランシーバーはどちらも充電しながらで使用が可能です。

リセット

トランスミッターとレシーバー両方に、凹みのあるリセットボタンが背面にあります。リセットボタンは本体の反応がない場合、電源ボタンの代わりに電源をオフにする機能があります。リセットボタンは電源がオンの時のみ有効です。リセットボタンは、クリップのような先端が硬く、細いもので押してください。1 秒押して離すとリセットが実行され、電源が切れます。その後、電源を入れ直してください。

はじめに

送信機用に 2 種類のアンテナが同梱されています。細く弾力性のあるフレキアンテナは多くの撮影環境で快適に使用いただけますが、Wi-Fi が混雑した環境や見通しが悪い場合、長い通信距離で使用する際は、より電波の妨害に強い高出力アンテナの使用を推奨します。

仕　様

PRO-XR

送受信帯域:	2.4 GHz ISM Band
S/N比:	86 dB
ダイナミックレンジ:	MIC: 90dB / AUX: 87dB
受信距離:	50m / 見通し標準距離
周波数特性:	MIC: 60 Hz – 20 kHz AUX: 30 Hz – 20 kHz
ビットレート:	384 kbps
システムレイテンシー:	6.8 ms
電池充電回数:	500回
充電池タイプ:	リチウムイオン, 3.7 V, 1200 mAh, 4.44 Wh
電源供給:	USB 5 V

レシーバー (PRO-XRR)

最大出力レベル:	1.5 dBV
マイク出力:	Φ3.5 mm デュアルモノ TRS
ヘッドホン出力:	Φ3.5 mm デュアルモノ TRS
出力インピーダンス:	Mic: 2 kΩ / Headphone: 10 kΩ
電池寿命:	21時間
充電時間:	2.5時間
外形寸法:	48 x 79 x 14 mm (W/H/D)
重量:	76 g

トランスミッター (PRO-XRT)

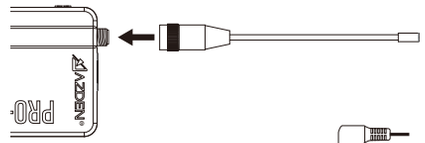
送信出力:	10mW
マイク入力:	Φ3.5 mm モノ TRS
外部AUX入力:	Φ3.5 mm TRS *ジャック内部でモノになります。
入力インピーダンス:	MIC: 9.1 kΩ / AUX: 100 kΩ
最大入力レベル:	MIC: -22 dBV / AUX: -2 dBV
電池寿命:	15 時間
充電時間:	2.5 時間
外形寸法:	48 x 79 x 14 mm (W/H/D)
重量:	65 g

マイク (EX-507XR)

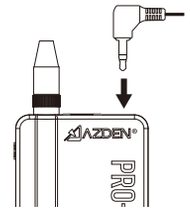
形式:	エレクトレット コンデンサー
指向性:	無指向性
周波数特性:	20 Hz - 20 kHz
感度:	-38 dB @1 kHz, 0 dB=1 V/Pa
インピーダンス:	2.2 kΩ @1 kHz
電源:	プラグインパワー DC 1-10 V
コネクター:	Φ3.5 mm モノ TRS
コード長:	1.2 m

クイックスタートガイド

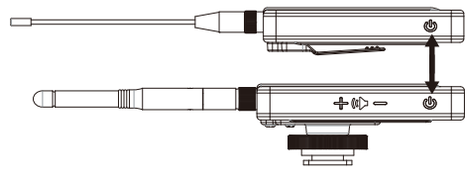
① アンテナをトランスミッター (TX) に取り付けてください。



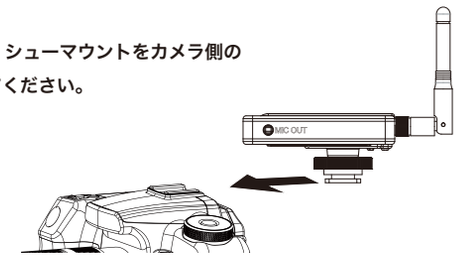
② ラベリアマイク (EX-507XR) を本体上部にあるマイク入力に差し込んでください。



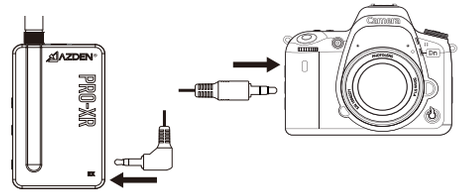
③ トランスミッター (TX) とレシーバー (RX) の電源ボタンを 1 秒ほど押し続けてください。
自動的にペアリングされ緑色のランプが点灯します。



④ レシーバー (RX) をカメラに取り付けてください。: シューマウントをカメラ側の
シュー 取り付け部に差し込み、しっかりと固定してください。



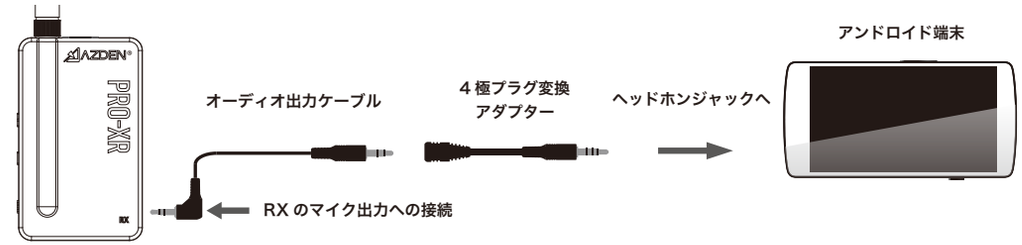
⑤ レシーバー (RX) のマイク出力へ同梱されたオーディオ接続ケーブルを接続してください。



以上で PRO-XR を使用した動画撮影を開始することができます。より詳細な使用につきましては引き続き取扱説明書をご覧ください。

4 極プラグ変換アダプターによるモバイル端末への接続（ほとんどのアンドロイド端末ならびに古い iOS 端末）

① 4 極プラグ変換アダプターをお使いの端末のヘッドフォンジャックに接続します。
② 4 極プラグ変換アダプターをオーディオ出力ケーブルに接続します。
③ オーディオ接続ケーブルを PRO-XR のレシーバのマイク出力に接続します。



パソコンと使用する

4 極ジャック / ヘッドセット入力

現在ほとんどのパソコンにはモバイル端末と同様のヘッドホンジャックがあります。このヘッドホンジャックはマイク入力とヘッドホン出力が一緒になっているタイプです。お使いのパソコンにこのタイプのジャックがあれば、上記の "4 極プラグ変換アダプターによるモバイル端末への接続 " と同様の方法で PRO-XR を接続することができます。

マイク入力

パソコンによっては、専用のφ3.5mm マイク入力がある場合がございます。この入力における適切な判断についてはお手元のパソコンのマニュアルをご確認ください。お使いのパソコンにこの入力端子がある場合は、PRO-XR のレシーバーをカメラと使用する場合と同様に 3.5mm マイク入力にてパソコンに接続できます。

ご利用の際に、パソコンの OS 上のオーディオ設定やお使いのソフトウェアの設定を変更する必要がある場合がございます。

AUX 入力の使用

PRO-XRT トランスミッターの特徴の一つとして予備の AUX 入力があります。この AUX 入力はマイクレベルより大きい信号向けで、マイクは動作しません。（マイクを使用する場合は、トランスミッターのマイク入力に接続してください。）AUX 入力を使用する際は、入力セレクタースイッチを AUX IN の表示側に合わせるか、もしくはセンターに合わせればマイク入力と一緒に使用できます。

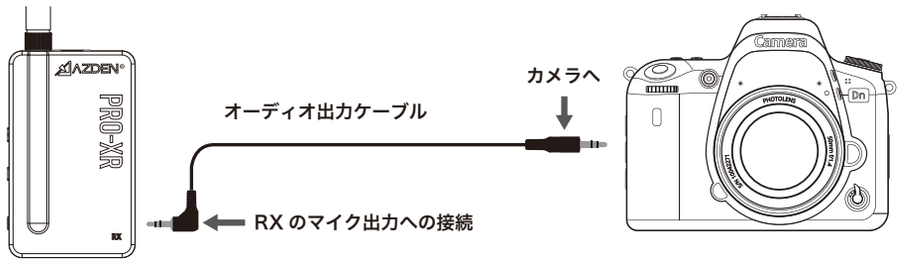
AUX 入力には様々な使用方法があります。1 つの方法としてマルチチャンネルのミキサーの出力と接続することができます。この場合は、2 つかそれ以上のマイクをミキシングしてワイヤレスでレシーバーへ送ることも可能です。

追加のケーブルやアダプター（PRO-XR システムに含まれません）は外部機器に接続するために必要な場合がございます。AUX 入力はステレオ信号を受け入れますが、レシーバーへの送信はモノラルになります。

カメラと使用する

PRO-XR のレシーバーにはシューマウントが装着されており、一眼レフカメラやミラーレスカメラに簡単に取り付けられます。カメラのマウント部にシューマウントをスライドさせ、ねじを回してレシーバーをカメラにしっかり固定させてください。

3.5mm マイク入力 : お使いのカメラで PRO-XR システムを使用するためには、カメラ側に 3.5mmのマイク入力が必要となります。同梱のオーディオ出力ケーブルをレシーバーのマイク出力ジャックとカメラのマイク入力ジャックにそれぞれ接続してください。いったん接続されれば、ほとんどのカメラは自動的に外部マイクが使用されていることを検知しますが、オーディオ入力ソースを手動で選択する必要があるカメラもありますので、その際はカメラの説明書をご確認ください。



モバイル端末と使用する

PRO-XR はスマートフォンやタブレットを使用してモバイル撮影やライブストリーミングなどでご利用いただけます。
PRO-XR にはお使いのモバイル端末と接続するための 4 極プラグ変換アダプターが同梱されています。

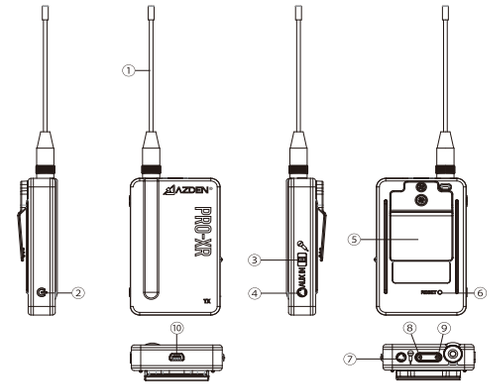
ライトニングケーブルによるアップル iOS 端末への接続 (iPhone, iPad, iPod Touch)

① ライトニングケーブルをお使いの iOS 端末に接続します。
② 同梱の 4 極プラグ変換アダプターとライトニングケーブルを接続します。
③ 同梱のオーディオ出力ケーブルと 4 極プラグ変換アダプターを接続します。
④ オーディオ接続ケーブルを PRO-XR のレシーバのマイク出力に接続します。

※ アップル製品と接続するためのライトニングケーブルは同梱されていません。使用の際は別途ご用意ください。

各部名称 / PRO-XRT トランスミッター

① アンテナ
② 電源ボタン
③ 入力セクター
④ AUX入力
⑤ ベルトクリップ
⑥ リセットボタン
⑦ マイク入力
⑧ シグナルインディケーター
⑨ パワーインディケーター
⑩ Mini USB 充電ポート



使用方法

電源スイッチを入れる / 切る

PRO-XRTの電源ボタン②を1秒ほど押し続けてください。充電が十分にされていれば数秒で送信機と受信機は接続されシグナルインディケーター⑧が緑色に点灯します。

パワーインディケーター

パワーインディケーター⑨は、バッテリー残量 45%以上の場合は緑色、25%～ 45% の範囲ではオレンジ色、10 ～ 25% の範囲では赤色にてそれぞれ点灯表示され、10%を下回ると赤色に点滅します。

＊ 送信機、もしくはトランスミッターの電源を入れた際は、バッテリー残量表示が反映されるまで、約 30 秒間は緑色に点灯しますのでご注意ください。

シグナルインディケーター

トランスミッターのシグナルインディケーター⑧は接続状態を示しています。接続が完了している時は緑色に点灯します。緑のランプが点滅している時はペアリングを実行中で接続を確立しようとしている状態です。ペアリングに関する詳細な方法は　7 ページをご確認ください。

入力セレクター

入力セレクターのオーディオ入力ソースは 3 つの設定があります。
スイッチをマイクロホンのアイコン側に動かすとマイク入力⑦を使用することができます。
スイッチを "AUX IN" に動かすと④の外部 AUX 入力が使用可能です。
スイッチを真ん中に設定すると、両方同時に使うことができます。

マイク入力、AUX 入力

PRO-XRT は、2つのオーディオ入力があります。マイク入力⑦は 3.5mm のアンバランス TRS ジャックで本体上部に位置しており、モノラルのマイクレベルに対応しています。EX-507XR のプラグをこの入力に差し込んでください。AUX 入力　④は 3.5mm のアンバランス TRS ジャックで本体側面に位置しており、ステレオ信号に対応しています。

充電

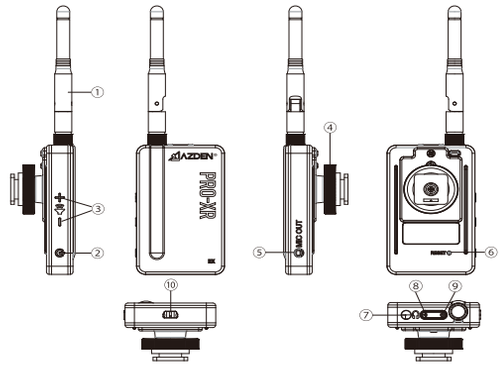
トランスミッターを充電する際は、付属の二股式充電ケーブルの一つを mini USB 充電ポート⑩に差し込んでください。ケーブルの反対側を AC アダプターの USB ポートに差し込んでください。充電中はパワーインディケーター⑨が緑色に点滅します。充電が完了すると表示が消えます。

リセット

電源ボタン②の反応がない場合は、リセットボタン⑥を押して電源をオフにすることができます。

各部名称 / PRO-XRR レシーバー

① アンテナ
② 電源ボタン
③ ボリューム
④ シューマウント
⑤ マイク出力
⑥ リセットボタン
⑦ ヘッドホン出力
⑧ シグナルインディケーター
⑨ パワーインディケーター
⑩ Mini USB 充電ポート



使用方法

電源スイッチを入れる / 切る
PRO-XRRの電源ボタン②を1秒ほど押し続けてください。充電が十分にされていれば数秒で送信機と受信機は接続されシグナルインディケーター⑧が緑色に点灯します。

パワーインディケーター
パワーインディケーター⑨は、バッテリー残量 45%以上の場合は緑色、25%～ 45% の範囲ではオレンジ色、10 ～ 25% の範囲では赤色にてそれぞれ点灯表示され、10%を下回ると赤色に点滅します。＊RX の電源を入れた際は、バッテリー残量表示が反映されるまで、約 30 秒間は緑色に点灯しますのでご注意ください。

シグナルインディケーター
レシーバーがトランスミッターとペアリングされ接続された状態の時、シグナルインディケーター⑧は緑色に点灯します。緑色が点滅している際は、レシーバーはトランスミッターと接続できていないもしくは範囲外にあることを示しています。緑色が点滅した状態が続く場合は、再度ペアリングを行う必要があります。ペアリングに関する詳細な方法は 7 ページをご確認ください。

ボリューム
ボリューム③で出力レベルを増減してください。ヘッドホンレベルはマイクレベルと連動しています。ボリューム③は 6 段階です。電源を入れた際は常に初期のボリューム設定 (4 段階目) からスタートします。それぞれプラス（+）ボタンを 2 回押すと最大音量、マイナス（−）ボタンを 3 回押すと最小音量になります。音量は各段階ごとに 3dB 変わります。

マイク出力
レシーバーのマイク出力⑤は 3.5mm のアンバランス TRS ジャックでマイクレベルでの出力になります。付属のオーディオ出力ケーブルを使用して、レシーバーをカメラのマイク入力と接続してください。さらにオーディオ出力ケーブルに４極プラグ変換アダプターを取り付ければ、レシーバーをスマートフォンやタブレットに接続することができます。接続における詳細は８～９ページをご確認ください。

ヘッドホン出力
ヘッドフォン出力⑦は 3.5mm のアンバランス TRS ジャックで、ヘッドホンやイヤホンを接続し、オーディオをモニタリングするために使用してください。

充電
レシーバーを充電する際は、付属の二股式充電ケーブルの一つを Mini USB 充電ポート⑩に差し込んでください。ケーブルの反対側を AC アダプターの USB ポートに差し込んでください。充電中はパワーインディケーター⑨が緑色に点滅します。充電が完了すると表示が消えます。

リセット
電源ボタン②の反応がない場合は、リセットボタン⑥を押して電源をオフにすることができます。

EX-507XR　ラベリアマイク

PRO-XR には高性能ラベリアマイクが付属されています。タイピンクリップとウインドスクリーン付きのラベリアマイクは無指向性でトランスミッターから電源供給され、アンバランス TRS の 3.5mm 端子を採用、必要に応じてその他ワイヤレス機器にも使用できます。
PRO-XR で EX-507XR を使用する際は、トランスミッター上部に位置するマイク入力にプラグを差し込んでください。
マイクのクリップを使用する人の口元から８～ 15ｃm程度話して装着すると最適な集音ができます。

トランスミッター（TX) とレシーバー（RX) のペアリング

PRO-XR のトランスミッター (以下：TX) とレシーバー（以下：RX) は工場出荷時にペアリングされており、初回使用時からそのままご利用できますが、何らかの理由でペアリングを再度行う必要がある場合がございます。また、RX のシグナルインディケーターが緑色に点滅し続けている場合は、ペアリングが正常に完了できていないため再度ペアリングを行う必要があります。ペアリング作業は、元々使用していた TX もしくは RX を新しい TX もしくは RX と交換する際、または 1 つの TX に複数の RX を追加で使用する際はその都度ペアリング作業が必要となります。

① はじめに TX と RX の電源を切ってください。また、バッテリー残量が少ない場合はペアリングできない可能性があるのでご注意ください。

② TX と RX 同時に電源ボタンを押して約 5 秒間ペアリングモードになるまで押し続けてください。シグナルインディケーターが赤色に点灯するまで RX/TX の電源ボタンを押し続けてください。TX の方が赤色に点灯するまで少し時間がかかります。

③ 赤色になったら電源ボタンから手を離して下さい。シグナルインディケーターは、それぞれ RX が緑色に点滅、TX が赤色に点滅します。

④ 赤色に点滅したら電源ボタンを再度押して手を離してください。数秒以内にシグナルインディケーターが緑色に点灯しペアリングは完了します。

ペアリングがうまく行われなかった場合は、一度電源を切り再度ペアリング作業を行ってください。一度 RX と TX のペアリングが完了されれば、次回以降使用の際は、電源を入れた時点で自動的にペアリングされています。1 つの TX に対して複数の RX をペアリングする場合は、上記の 1 ～4の手順で RX とのペアリングを進めてください。尚、1 つの RX に対して複数の TX をペアリングすることはできません。